

第8回女子懇親会の報告

日時 9月19日(土)12:00~14:30

場所 国分寺丸井9階 中華料理「華琳」

会費 各自注文実費

参加者 白井・牧野・大竹・藤崎・久保田・荒木・OG真篠 (敬称略)



女子会は晴れ女の集まり?(^-^) 久しぶりの青空のもと、今日は7人が集まりました。

さっそく今日参加出来なかった皆さんの近況を報告、それぞれお元気で忙しいそうですね。いつもの様に、小平稲門会の活動の様子を報告して、そうした中で女子会はどのようにしていくか、また近隣稲門会女子会員の悩みなども報告され、私達も共に悩みました。

食事の後は、今日のお話「小平の話」を、横浜のサラリーマンの家庭から、小平の旧家に嫁がれた大竹さんから伺いました。

数十年前からの小平の様子、とても興味深いお話でした。

《大竹さんのお話》

- * 「小平」の名前は平らな所+小川家の小で付いたそうです。また「花小金井」は桜花+小金井で付けられました。遊歩道の美しい桜はオリンピックの頃に植えられたそうです。
- * 大竹さんの嫁いだ家は、江戸享保の頃に開拓された土地の一つ、野中新田の北で、地名が北野中という交差点に残っています。江戸時代、小平は宿場ではなかったので栄えず、また水が少ない土地だったために米は穫れず、何かにつけてうどんを作る土地だったそうで、今もそれは続いているそうです。
- * 婚姻は同等の家同士で行われたので、迎るとみんな親戚と言う状態だそうで、大竹さんが結婚した頃から、他所からのお嫁さんが来るようになったそうです。サラリーマンの家から、勤め先で紹介されたご主人と結婚されたそうですが、地元のしきたりのギャップで戸惑うことは多く、驚きの連続だったそうです。親戚のお付き合い、まず顔を覚えるのが一苦労、本家のお嫁さんの重責を担う毎日となりました。
- * 現在でも両隣と向かいの家三軒が一組の「隣組」の制度は健在で、冠婚葬祭はじめ多くの行事に関わりは強いそうです。
- * 大竹さんが結婚した当時のお嫁さんの条件は「うどんが作れる」「赤飯が炊ける」「まんじゅうが作れる」「おはぎが作れる」・大竹さんもお姑さんから教わったそうです。今でも、行事の時には振舞われるそうです。
- * 1年の行事は多く、本家としてお彼岸・お盆・節句のお客様の接待、祭りの手伝いなど今でも普通の家庭の主婦とは違う仕事がたくさんあるようで驚きました。お盆は旧盆の8月13日~15日、13日には円成寺さんから提灯を頂き、「盆棚」を作り先祖を接待するそうです。昔は頂いた提灯を掲げ、徒歩で帰って来たのだそうです。今は車? お盆の3日間は三食お膳を差し上げます。ひな祭りの時は、ちらし御膳を作ってお雛様を飾り、蔵には各時代のひな人形がしまわれていたそうです。秋まつりには、神社を中心にして女子部が活躍、親睦を兼ねての仕事は沢山あります。
- * 家の財布はお姑さんが持ち、お嫁さんは必要なお金を貰うのだそうです。それはお姑さんがご病気になられた40歳代まで続いたそうです。いつでもご主人か、お嫁さんか、どちらかは家に居なくてはならず、新婚旅行からのち二人で一緒に出かけたことは無かったそうです。
- * サラリーマンの家庭から旧家に嫁ぎ、ゴルフ練習場経営のご主人を支えながら、地元のしきたりを守っての数十年、ご主人の優しさがこの大変な経験を乗り切らせてくれたと大竹さんは締め括っていらっしゃいました。

それにしても、東京の一角と思っていた小平でのほんの数十年前の毎日が、まるで映画のワンシーン、小説の世界の様に営まれていたことにとても驚きました。

立派に嫁の務めを果たされた大竹さんの、これからの毎日がますます素晴らしいものでありますように・・・小平稲門会でも活躍して下さいね。(^-^) (文と写真 荒木)

次回の女子会は、以下のように予定しております

11月21日(土)12:00~14:30頃

国分寺Lタワー 9階「華琳」

お話は「アメリカのお話」 藤崎さん